



平成30年10月26日

各 位

上場会社名 株式会社 サンテック
 代表者 取締役社長 八幡欣也
 (コード番号 1960)
 問合せ先責任者 執行役員管理部長 船戸文英
 (TEL 03-3265-6181)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年8月6日に公表した平成31年3月期(平成30年4月1日～平成30年9月30日)の第2四半期業績予想の予想値を本資料発表日現在において、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、直近の業績動向を踏まえ、平成30年8月6日に公表した平成31年3月期(平成30年4月1日～平成31年3月31日)の通期業績予想を、下記の通り未定といたしますのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成31年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	24,000	1,000	1,200	800	45.29
今回修正予想(B)	19,656	93	377	198	11.22
増減額(B-A)	△4,343	△906	△822	△601	
増減率(%)	△18.1	△90.7	△68.5	△75.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	19,336	572	999	1,097	58.06

平成31年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	51,000	2,300	2,700	1,800	101.90
今回修正予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	40,882	1,102	1,686	1,411	75.75

平成31年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,000	900	1,100	800	45.29
今回修正予想(B)	12,717	43	350	235	13.35
増減額(B-A)	△3,282	△856	△749	△564	
増減率(%)	△20.5	△95.2	△68.1	△70.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	13,601	675	1,160	1,303	68.94

平成31年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	34,000	2,100	2,500	1,700	96.24
今回修正予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	27,250	1,112	1,678	1,509	81.00

修正の理由

1. 第2四半期業績予想の修正理由

(1) 個別業績予想の修正理由

売上高につきましては、前期繰越した工事の進捗が工期延長の影響もあり当初の見込みを20億円弱下回り、当期受注工事の売上高への見込みも10億円強下回ったことから、前回発表予想から大幅に減少する見込みです。

利益面では、国内工事の労務単価が高止まりするなか、計画していた原価改善が未達になるとともに、プラント施工管理において労務外注費の超過が発生し一部の現場にて赤字工事が発生したことなどにより売上総利益率が計画比で2.1ポイント悪化したことから営業利益、経常利益、四半期純利益が前回発表予想から大幅に減少する見込みです。

(2) 連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、個別売上高の影響もあり前回発表予想を下回る見込みです。

利益面では、個別業績予想の修正理由を主因に、上海、ベトナムにおいて売上高増強策による売上総利益改善の遅れから営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回発表予想から大幅に減少する見込みです。

2. 通期業績予想の修正理由

国内景気は引き続き緩やかな回復が続くものと期待されますが、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による景気の下振れリスクによる影響が懸念されます。

工事受注に対する施工体制の確保や海外支店、海外子会社の利益改善への取り組みなど課題が見られました。また、プラント施工管理において一部の現場にて管理体制・管理方法に係る問題が顕在化したため、問題の把握と対応策の確定まで、新規建設工事の受注を見送ることしております。

本日現在、通期業績を合理的に見積もることができないため、平成31年3月期の通期業績予想を未定としております。当社グループは、業績回復のための戦略に取り組んでおり、開示が可能となった時点で速やかに、新しい通期業績予想をお知らせいたします。

(注)上記予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上